

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 1月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100017		
法人名	有限会社 ウェルケア		
事業所名	グループホームやすらぎ温品		
所在地	〒732-0033 広島市東区温品七丁目13-23 (電話) 082-508-6188		
自己評価作成日	平成28年12月15日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100017-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年1月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「好縁会生活づくり10カ条」を基に、画一的でなく個別重視のサービスを提供しています。グループホーム内の生活環境の調整や、地域の中でも生きがいや役割をもって生活ができるよう、積極的に個別支援・地域行事参加など、バランスのとれたアプローチをしています。職員は内部・外部研修へ励み、知識と技術向上、また接遇目標を毎月変え、節度ある行動を身につけています。何より「褒めること」「認め合うこと」を大切にして、相互理解へつながり休暇、休憩制度も充実しています。人は仲間と交流することによって生活を生き活きとしたものにし、毎日の生活行為を積み重ねることで廃用性の障害を防ぐことができます。利用者様にとって生活行為そのものが、大切なリハビリであるため、できるだけ心身ともに活動的な「生活」を支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>メイン道路から少し入り、梅畑や野菜畑を目前にした静かな環境にあり、すぐ傍に立地する特別養護老人ホームとは交流が深く、共に地域に根ざした当グループホームは開設10周年を迎え、新たな展望に向け職員共々、気持ちをひとつにしてスキルアップに励んでいる。こども110番の家にも指定され、近隣の中学生がそうめん流しのイベントの手伝いに訪れるなど、地域の祭りや催しにも積極的に参加し、交流を図っている。東区温品出張所がすぐ近くにある利点を含め、行政関係との連携も密になされている。地域との共助の関係性や感謝の心を大切にしながら、様々なグループホーム内行事や人々とのさりげないふれあいを通じ、利用者の日々の生活の活性化を図り、共に暮らし、共に楽しみ、チームで統一したケア及びサービスの質の向上を目指し尽力している事業所である。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 1階 A棟					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	経営理念、行動指針、好縁会生活づくり10カ条を基に、管理者と職員はその意図を共有し、実践している。事業所内目標として接遇面や相互に思いやる心を育むことに力を注ぎ、事業所全体のスキルアップとサービスの質へ反映させている。	法人理念、行動指針に加え、事業所の目標を掲げ、職員間で共有し、日々のケアに反映させている。利用者がその人らしく住み慣れた地域で暮らし続けられるように、また職員は向上心を持ち続け、支援に臨む目標に向かい、各々の個別目標も含め振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	2か所の町内会へ入会し、季節ごとの地域の祭りや催し物に参加している。隣接する特別養護老人ホームの夏祭りでは毎年出店を開き、地域住民の方より好評を得ている。前任の町内会長様起案のそうめん流しなど、近隣の学生が季節行事のボランティアを率先して担って下さったり、交流が築けている。畑の手入れも、近隣の住民・農協との関係構築ができており、ご指導を助けて、ご利用者様と共に行っている。	町内会との関係も良好で、様々な季節行事に積極的に参加し、長年にわたり交流を図っている。開設10周年記念パーティーや近隣他施設との合同夏祭りなど多彩な催しを通じ、関わりや親交を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーターキャラバンメイト研修の終了者3名が在籍している。今後、認知症アドバイザーとして、認知症についての講演の講師を務め、また、事業所の実践内容等を地域へ発信しご理解やご支援を頂けるよう、講演依頼を随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、事業所の状況・提供しているサービス内容について報告している。利用者様の日常の様子を写真やTV上映で見えやすく、参加者との話し合いの機会を設けている。また、会議内で消防避難訓練を行い、ご意見・ご要望など、早急に対処・改善に努め、サービスの向上を心がけている。任期を1年とし、利用者代表として3名の利用者様も会議に参加し、意見を頂いている。	隔月開催の当会議には、家族代表、利用者代表、地域や行政関係者などの参加を得て意見交換し、要望・提案他を集約してサービス改善に努めている。今後は参加メンバーの幅を広げ、テーマを決めて内容の充実を図るなど、さらに運営に活かせる工夫を検討している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	東区温品出張所がすぐ近くにあり、行政への届出書類など不明な点は積極的に相談に伺い、適切なアドバイス・指導を受けるなど、協力関係が築けている。又、出張所で処理扱いできない用件は市町へ取り次いでもらい、サービスの取組みを伝えている。	近隣にある東区温品出張所へ申請や手続き、個別相談などに出向き、密に連携し関係を深めている。地域包括支援センターからの研修参加や、オレンジプランに関する協力など、積極的に取り組み、地域との絆を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置し、定期的に全員が研修を受講。研修を基に委員会活動をし、発信・実行している。個別状況に応じたミーティングを定期的開催し、意識の徹底と周知を行っている。玄関の施錠に関しては、夜間のみ防犯として施錠している。ベッド柵やセンサー等、定期的に点検を行っている。また、事業所内に身体拘束排除宣言の指標を掲げている。</p>	<p>定期的な法人研修はもとより、身体拘束廃止委員会を設け、職員の啓発を促している。なるべく見守りによるケアに努め、スピーチロックも含め、制約を加えないような取り組みを職員間で心がけている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置し、定期的に会議を行い、内容は回覧にて全職員で周知徹底、防止に努めている。毎日のケアで全身のボディチェックを行うことは勿論、入浴介助も勤務形態に捉われず、その日の出勤者が各人ケアを担う体制を設けている。拘束や虐待をしないことは当たり前的事として捉えている。職員のストレスから虐待に繋がらないよう、職員のストレスケアにも定期的な個別面談を中心に、目を向けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>自立支援医療受給(精神通院)を利用されている認知症の方が2名おられ、関係者と連絡を取りながら支援費の活用に繋いでいる。精神障害者や成年後見制度について、職員は研修にて理解し、活用できるよう努めながら支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書に基づいて、利用者様、御家族に十分な説明を心がけている。変更が生じた場合も、その都度説明し、書類をお届けしている。不安や疑問点についてもしっかりと伺い、説明をし、ご理解頂ける様にしている。誠意を持って迅速に対応できるよう心がけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回の家族会を定期開催し、要望や意見を運営に反映させている。御利用者とは細やかなコミュニケーションを心がけ、どの職員とも話しやすい雰囲気作りをし、機会を見逃さないようにしている。御家族の面会時は積極的に声かけを行い、意見や要望を見落とさないようにしている。気持ちの良い挨拶等、話しやすい雰囲気作りにも努め、忌憚のないご意見を頂いている。</p>	<p>家族へ写真を添えた手紙を送り、日常の様子を知らせたり、面会時や家族会などで要望や意向を伺っている。今後はより意見収集に努め、個々のケアの質の改善につながるよう家族との絆を深めたいと考えている。</p>	<p>家族からの要望・意見を伺い、話し合いの機会を増やし、理解や納得が得られるようさらに絆を深め、職員間でも検討し、ケアに反映させる取り組みに期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にフロアミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、その議事録を回覧し、全職員で共有している。意見や改善・疑問点等をあらかじめ全職員に提出してもらい、ミーティングの議題として反映させている。ミーティング以外で気づき等あれば、職員個別BOXへメモを投函し、話し合いの場へと繋いでいる。反映の場の拡大も、親睦会などを通じこまめに設け、意識の向上に努めている。	フロアミーティングで定期的に話し合い、エリア毎の系列グループホーム合同会議でも、ケアの質の向上や職員の意欲増進に繋がる協議を重ね、ストレスケアにも留意している。広報誌「やすらぎだより」に職員のアイデアを取り入れ、楽しいエレメントとして工夫を凝らしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が年度目標（チャレンジシート）を作成し、目標達成に取り組んでいる。また、評価表にて各職員の努力や実績を評価している。四半期ごとに行う個別面談では、進捗状況に合わせた課題を出し、意欲の向上へと努めている。また、管理者面談の他にフロアリーダーは職員の悩みや不安な思いをいつでも傾聴し、職員への理解を示し、ワンランク上の考え方を習慣付け、プロとしての成長をサポートしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修委員会があり、年間の研修予定が綿密に立てられ、月1回の法人内介護アドバイザーによる事業所内研修も行われ、知識・技術のスキルアップを図っている。外部研修についても、研修費補助や勤務内研修が認められ、参加しやすい体制が整っている。法人内に研修部ができ、様々な内容を学ぶ機会が増えている。職員の参加希望者を募り、無理のない範囲で積極的に研修に参加する意識が芽生えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	内外の研修をきっかけに、他事業所の方と意見交換をする機会が持てた。同業者からの見学・問い合わせも受けている。ネットワークづくりについては、法人は3つのエリアに分類され、エリアごとのグループホームが一堂に集まり、質の向上に向けての会議など行っている。また、お互いに切磋琢磨しあえるよう、広報コンテストやグッジョブコンテストなどで、事業所の良いところを相互に参考として、吸収・向上している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前に管理者・看護師が事前訪問し、関係作りをしている。御本人の不安や想いを可能な限り受け止め、少しでも不安を取り除けるよう努めている。アセスメントした情報を全職員で共有し、安心感を持って頂ける様、チーム一丸となり、より良い関係作りを努め、安心感を持って頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族の不安やご要望など十分に話を伺い、誠意を持って受け止め、安心してサービスを受けて頂けるよう努めている。毎月、グループホームでの様子を取めた写真入りのお手紙や、二ヶ月に一回、日々の写真を多く取り入れた独自の広報誌を郵送し、さらに、年度毎には全ての御家族へグループホームでの写真データをお渡ししている。グループホームから遠方の御家族へは郵送や電話連絡をしている。生活状況の伝達を行うことを約束し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	居宅支援事業所と協力連携を図り、他のサービス利用情報も可能な限りお知らせできるように努めている。又、協力機関からの有力情報やアドバイスを受け、見極めに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な限り共に過ごし、寄り添い、利用者様が自分らしく、主体性のある生活を送っていただけるよう、気兼ねを抱かせない、いつでも感謝の心を大切にしている。まずは挨拶から始まり、ご利用者一人ひとりを意識し、共に在り、共に歩んで行ける、無理のない関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の体調や様子を細かくお伝えし、御家族の不安や心配事を伺い、ケアの方向性を一緒に考え、支援している。行事を事前にお知らせすることで、積極的に参加していただいたり、外出・外泊などのご協力もいただいている。絆を壊さないよう十分に配慮した上で、きちんとした情報を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方の来訪時には、話しやすい雰囲気を作り、会話の橋渡しをしている。又、遠方の方へは手紙の代筆・投函なども行っている。グループホーム内の行事の案内（ポスター、広報等）にて、御家族の行事同行や、馴染みの店や美術館、思い入れのある場所等、御家族と共に出かける要望に沿った個別支援にも力を入れている。ご要望に応じて、一緒に撮った写真の送付も行い、喜んでいただいている。	大学の音楽学科の学生達が、歌や懐かしい曲の演奏ボランティアに来訪したり、近隣の中学生との交流ほか、馴染みの関係を大切に継続している。手作りのパン屋も定期的に訪れ、利用者の楽しみとなり、親しい人達との関係が途切れないよう、雰囲気づくりに心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席はご利用者同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、ソファの配置などリビングの環境にも配慮している。合同遊びリテーションを行ったり、各棟行き来し、各棟関係なく、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り、意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とするケースは発生していないが、今後、必要に応じては柔軟に対応していきたい。契約終了後一定期間において、御家族への連絡を行っている。（CD/USB/お手紙など）		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、本人の想いを十分に聞きだせるよう努めている。御本人や御家族が話された内容は記録に残しシート化され、（ライフストーリー）全職員が共有できるようにしている。今までのライフスタイルに近づけるよう、担当者が立案し、実行している。馴染みの場所等への個別外出支援も行っている。	ライフストーリーを基に、普段の何気ない会話やふれあいの中から、意向や思いを汲み取っている。担当制ではあるが、各職員が把握し、アセスメントに取り入れ、個々の思いに寄り添う支援として、個別外出などに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族からの情報提供を基に、基本情報やアセスメントシートを作成・活用し、ほぼ把握できている。馴染みの方々からも、詳しい情報を頂き、生活場面や御本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。人生史も重視し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出勤時職員は、ご利用者全員の情報収集を義務化している。日常生活記録と個別記録を主として、毎日の様子を記録し、フロアにこだわらず全職員が現状を把握し、臨機応変に対応できるよう体制を整えている。担当にこだわらず、ご利用者全員の現状把握に努めている。終末期の方へは、出勤時に訪室させて頂き、声掛けやスキンシップを行っている。全職員で日々を大切に過ごして頂くよう、学ばせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントを行い、御本人や語家族・関係者と話し合いの上、カンファレンスで全職員から長所・短所や課題を抽出し、ニーズに沿ったケアプランを立てている。1ヶ月おきにモニタリングを行い、全職員から意見やアイディアを出し合い、それを基に課題を抽出し、見直しをしている。</p>	<p>担当スタッフ、本人、家族、医師の意見などを加味しながら、ニーズに合わせた介護計画を立案している。各フロアでケアプラン実行項目をシート化し、全職員に分かりやすくまとめ、有効に活用している。今後は、家族等の意見・要望を更に取り入れ、思いを叶えるプラン作りにつなげたいと考えている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録・個別記録を主な記録とし、心身状態の変化・プラン実施状況・生活状況・会話等を詳しく記録に残している。職員は記録を共有し、ケアプラン作成やモニタリング、見直しに反映させ、活用している。ケアプランの実行項目はフロアごとに簡素化して一覧にし、それぞれのニーズやサービス内容を全職員が把握できている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存サービス外と思われるニーズに対しても、可能な限り対応している。個別外出支援をはじめ、外泊時など突発的な出来事が発生した場合や、希望先への受診など、柔軟な支援を心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域のマラソン大会の応援、近くの中学校へ選挙に出向く、馴染みだった店や場所に積極的に出かけている。また、近くの公民館も定期的に利用し、喫茶店等、外出ランチも行っている。消防署からは消防・避難訓練を実施して頂き、指導・アドバイスを受けている。地域の医療機関へも安心して受診し、住み慣れた場所での豊かな暮らしを目指している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体のクリニックを主治医にされている御利用者がほとんどだが、本人と御家族の希望で、他の病院を希望されている場合もある。いずれの場合も本人と御家族の要望に沿った医療が受けられるよう連携を図り、想いに添えるようにしている。</p>	<p>内科は週一回の訪問診療、運営法人の訪問看護も週一回あり、24時間体制で対応している。通院が必要な利用者には、職員の同行支援も行い、家族との情報共有を図り、健康管理に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度の訪問看護で健康管理が行われている。又、24時間いつでも連絡が取れる体制になっている。常時看護師と連携を図り、症状に合わせた適切な受診や看護を支援し、医療面での協働を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して入院生活を送っていただけ様、また早期の退院に向け、本人、御家族、医療関係者と話しあう機会をつくり、連携に努めている。入院実績のある病院からご協力頂き、関係づくりは良好と思われる。救急時にもスムーズな受け入れで対応して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期指針と称し、御家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認させて頂いている。本人とも可能な限り早期に話し合いの場を持つようになっているが、判断、決定には及んでいない。対象の方にはどのように支援していくのか、職員は状況を把握・共有し、地域関係者と状況を共有、チーム支援へと繋いでいる。	ターミナルケアについて、その都度、家族、関係者と話し合い、出来る限り個々の思いに寄り添う支援に努めている。最近、看取りの経験もあり、最期までその思いを共有し、職員間での意識も高まり、より良いケアに向けて、チームで取り組む姿勢がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員が定期的に法人内外研修にて学習し、慌てることなく、急変時の迅速な対応へとつないでいる。昨年度、職員は近隣の公民館にて地域の皆様と一緒に普通救命講習を受講した。今後も救命講習への参加を呼びかけに努めると共に、事業所内でも自主勉強会を開いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホーム内での災害時避難訓練は定期的に行われている。運営推進会議を通し、防災・災害時の対策について、隣接の特別養護老人ホームをはじめ、2町内会と地域を支える協力体制を築いている。自主消防避難訓練として、時にご利用者も参加頂き、より現実的な避難訓練が行えている。	年二回、消防署員立ち会いのもと、夜間想定で災害時救助訓練及び火災訓練を行い、それ以外に自主訓練を実施し、非常時に備えている。地域協定は結んでいないものの、近隣施設や地域住民との協力体制を築き、共助の関係性を育てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。人生の大先輩として敬うことをケア場面で徹底し、原則としている。尊厳とは「その人（介護人）の心にある」と研修で学び、実践している。	一人ひとりの尊厳を護り、プライバシーや個々のライフスタイルを大切にしながら、日々のケアに取り組んでいる。掃除やシーツ交換時に居室のドアを開けて行うため、ポータブルトイレに布をかける等の、さりげない心くばりにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションの工夫を図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的両面から自己決定ができるよう、思いを汲むことを重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り、その方の生活リズムやペースに添えるよう支援している。本人の思いを汲み取り、寄り添いのケアに力を入れている。起床、就寝、食事、入浴等、個別に支援し、一斉化は行われていない。いつでも無理をしない、させないを念頭に置いている。個別ケアを重視したケアプランを作成し、全員が周知し、それに沿ったサービスを行い、その人らしさを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一度訪問理美容が入っておりその方の好みの整容がされている。行きつけの美容院を利用されている方もいる。口紅やマニキュアを塗っておしゃれを楽しむこともある。いつでもご家族や友人に会ったり、外出できるように気を配っている。おしゃれも本人様の自己決定に可能な限り添えるようにしている。季節感を損なわない身だしなみに配慮したおしゃれを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー決めや盛り付け、配膳・下膳、食器洗い、お盆拭きを御利用者と共にしている。旬の物を取り入れ季節を感じながら、職員も同じものを一緒に食べ、楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位やテーブルの高さ、距離が適切になるよう、細やかに支援している。買い物も同行してもらっている。訪問パン販売も利用し、好みのパンを選んで頂いている。職員は毎日お茶の時間を一緒に共有している。	朝と昼は配食、夕食は手作りでの提供で栄養バランスを考慮し、旬の野菜もふんだんに取り入れたメニュー作りをしている。利用者に食事準備や後片付けを手伝っていたり、カップケーキ、たこ焼き、ぜんざい等のおやつ作りを実習生と共に楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	管理栄養士、看護師との連携を図り、連絡、相談 を行い、栄養指導を受けている。食が進まない御 利用者には全職員で協力し合い、アイディアを出 しながら御本人の食べたい物・飲みたい物を見つ け、提供している。水分摂取の重要性について、 全職員が理解し、適切な量を摂取できるよう取り 組んでいる。水分が進まないご利用者にはこまめ に提供したり、栄養補助食品も導入し、提供して いる。TPOと個性を重んじている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科と連携を図り、口腔衛生に努めている。 毎食後、御利用者の状態に合わせて、口腔ケアの 声かけ・介助を行っている。歯間ブラシやフロス も使用している。夜間は義歯を預かり、洗浄・消 毒を行っている。衛生面と共に、毎食前、口腔体 操を行い、唾液促進、咀嚼・嚥下機能の低下予防 にも努めている。また、歯科研修に全職員が参加 し、知識と技術向上を図り、それぞれに合った口 腔ケアを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄についての研修を行っている。排泄パ ターンや習慣を把握し、基本的におむつを 使用しない、紙パンツもできるだけ使用せ ず、布パンツでの対応をしている。自立支 援と並行し、気持ちのよい排泄を目指して いる。職員全員が「おむつを着用し排泄す る」研修を行い、ミーティングにて思いや 意見を共有し、気持ちの良い排泄ケアへ活 かしている。	気持ちのよい排泄を促すため、オムツは使 用せず、ほとんどの利用者が布パンツでの 対応とし、個々のパターンやタイミングを 見計らってトイレ誘導している。夜間はリ ハビリパンツとパッドの対応や、ポータブ ルトイレ、センサー等の活用で、転倒リス クの回避や安全性を保ちながら支援に努め ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師、看護師、管理栄養士と連携をはかり、便秘予防、対応、対策を行なってい る。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配 り他、適度な運動を取り入れて対策してい る他、腹部マッサージを行い、自然排便を 促している。午前中の体操も日課として行 われている。繊維質の食物やヨーグルトなど、 毎日欠かさず提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	可能な限り、希望に沿った入浴の支援に努めてい る。職員の数・性別は限られているが、出来る限 り同性の職員が介助を行えるよう、当日の職員が 連携をとり、心身ともに気持ちの良い入浴支援に 取り組んでいる。時間や曜日の取り決めは行わ ず、自由に入浴して頂いている。複数同時の仲良 し入浴も勧めている。各フロアで浴室の構造が異 なるため、気分転換を兼ねて、フロアを変わって の入浴も実施している。	曜日や時間に拘わらず、なるべく要望に合 わせ、同性介助を基本に入浴支援してい る。脱衣場に口腔ケア用品を置くスペース があるので、プライバシーを守る意味で、 仕切りカーテンを取り付け、落ち着いて入 浴できるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用前の生活スタイルを崩さないよう、起床・就寝時間を、可能な限り御本人の要望に合わせている。日中も体調に合わせた午睡や、居室で休んで頂けるよう、その方のリズムを大切にしている。夜間の安眠が確保されるよう、寝具類の調節、布団干し等こまめに行うなど、居室の環境整備も希望に沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は定期往診情報・内服薬リスト・アセスメントシート・薬一覧表などを基に、状況の把握に努め、職員間での連携を密にとり、症状の変化を見逃さないようにしている。服薬管理には意識の徹底を図り、複数にて慎重な対応をしている。医療との連携は密に行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	台所仕事(調理補助)や洗濯仕事・お盆拭き・茶道・習字・歌を唄う・行きつけのスーパーや喫茶店へ出掛ける、好物やノンアルコール飲料を飲みに行く、動物と触れ合いにペットショップに行く、畑仕事・花や野菜の手入れ収穫など、利用前にされていた趣味や得意だったことを御本人や御家族からお聞きし、利用後も継続して気分転換を図れるよう、思いに沿っている。また、習慣としているお散歩を通して、季節を感じたり、地域の方達とのふれあいを楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別支援として、ご家族様や地域の方にご協力を頂き、それぞれの要望に沿った場所(広島城、美術館、ペットショップ、ご家族様と飲食店など)へ行き、個別性の強い外出支援に取り組んでいる。これは毎月の行事参加に希望されなかった方へは特にご希望に沿っている。ご家族様や地域の方にご協力を頂き、定期的に外出される方もいる。近隣への散歩は日常として行っている。施設として、年1回の旅行行事にて非日常が叶えられるよう支援している。	外気に触れる大切さを理解し、観劇や美術鑑賞などに出かけ、縮景園への紅葉狩りには家族同行で行楽弁当を味わう他、要望に沿った個別外出にも取り組んでいる。利用者を少人数に分けて、毎年出かける一泊旅行も家族共々楽しみにしている企画のひとつとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望や能力に応じて、ご家族了承の上、御本人に管理して頂いている。必要に応じて買い物ができるよう、御家族にも協力を仰いでいる。おやつのお買出しなど、御本人が選んで購入、精算される場面もよくある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿って電話をかけたり、頂いたり、取次ぎを行っている。手紙や年賀状等の代筆・一緒にポストまで行き、投函も行っている。お便りの返信時など(ご本人直筆)には、負担にならない程度のアドバイスをさせて頂き、関係を壊さないよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	旬の花を飾る、旬の野菜を料理するなどして季節感をだしている。馴染みの空間作りができるように、御利用者が利用されるものや家具の配置をあまり変えないようにしている。また、好きな音楽を流したりして、落ち着ける空間づくりをしている。カラーコーディネートも取り入れ、季節に応じたアロマエッセンスを活用した環境整備に努めている。	正月には、地域の人達と共に手作りした門松を玄関に飾り、四季折々の花や置物で季節感を味わえるような工夫や雰囲気づくりに配慮している。玄関外にベンチを置き、天気の良い日には日光浴をしながら、談笑したり寛ぎの場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりがお気に入りの場所で、気の合う方と楽しく過ごせるよう、家具の配置など工夫している。又、御利用者の希望により、家具や席の配置を変更することもある。特にソファでは思い々の休息をされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物は、御本人の使いなれた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく利用のお住いに近い形で、心地よく安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。御家族の要望もとりいれ、心地よい個室作りを目指している。	居室入口には思い々の表札が掛けられ、お気に入りの品々や思い出の写真に囲まれながら、落ち着いて過ごせるような設えとなっている。ベッド、エアコンは備え付けで、その他の馴染みの物は持ち込んでいただき、居心地のよいスペース作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室に目印をつけ、わかりやすくしている。御利用者が使うものの配置を固定し、いつでも使用して頂けるようにしている。浴室は入浴台の配置やシャワーチェアを変えることで、御利用者一人ひとりに合った入浴方法にしている。又、自立支援を念頭に、安心安全な入浴介助(研修部発信)を行い、御本人ができることは安易に手出しせず、待つ姿勢と見守りを基本としている。		

V アウトカム項目 1階 A棟			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ温品

作成日 平成29年3月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族や地域の方へ会議を通じて情報発信しているが、3年前から出席者や会議内容がマンネリしていること。	次回会議内容を出席予定者と共に考え意見交換をより濃いものにする。	事業所からの発信ばかりにしない。共有を目的とするため、事前打ち合わせとして日々連絡をとる。新たな出席者を少なくとも3名増員し地域にメリットある会議を目指す。	平成29年4月～ 1年間
2	19	ご家族の来訪時、そのご利用者との時間を大事にするあまり、職員と話す機会が少ないこと。	日々のコミュニケーションを増やすことでご要望を話しやすい環境・雰囲気を作る。	面会時、言葉を交わす時間をもつ。遠方のご家族とは郵送物ばかりに頼らず郵送前に電話連絡するなど思い・意見を聞いていく。	平成29年4月～ 1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。